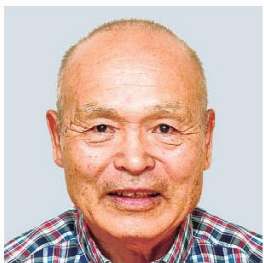


写真

## 「火渡り荒行」

岡村 雄策(高知市)



揺れる炎の熱さや煙の臭い、パチパチとほざる音が迫ってくるよう。厄を払い新年の無病息災を祈って、高知市内の寺で12月に行われる火渡りの行事だ。

「火渡りの写真はありふれちゆうし、ポイントが要る。勢いのある感じで足元を撮ろう」と構図を定めた。地面に腰を落とし、



おかむら・ゆうさく  
1943年高知市生まれ。褒状2回、初特選。

に赤やけん、どうかかなと思った。まさか特選とは…」と驚く。

定年退職後に写真を始めて16年。スナップや風景など「何でも屋」という。数年前に突発性難聴を発症し、体調面で長距離移動は難しいが、休み休み、足を延ばせる範囲でカメラを楽しんでいる。

「同じ場所に何度も行って、そのたびに『もう少し違うふうに撮りたい』次はこうし

## 赤と赤の臨場感

行者が速歩きで通るのを遠くから見ると、臨場感が望遠レンズで連写。が際立つ仕上がりになった。赤い装束と相まって、神秘的な雰囲気。意欲は盛んだ。

で、炎が足に絡んでい

(徳澄裕子)